

# 親子3人一部屋に隔離

昨年から予想されていた新型コロナウイルス感染拡大の第6波。今やいっどこで感染するかわからない状況で、一家そろって感染し、自宅療養になるケースも出ています。ある家族の体験を聞きました。

(小酒井自由)

育児休業中の鈴木健一さん(35)は東京都、仮名IIは、妻と小学3年生の長女、保育園の年長クラスの長男、0歳の次男の家族5人で暮らしています。先月

31日から鈴木さんと長男が体調不良を訴えたのを皮切りに、一家にコロナ感染が広がりました。

同時期には、長男が通う保育園でコロナ感染が広がって休園になっていました。鈴木さんと長男は、31日に発熱し、PCR検査を受け翌日に陽性の結果がでました。検査を受けて以降、陽性だった場合に備えて2人は1室で隔離生活を始めました。鈴木さんたちの発熱から数日後に長女が発熱。親子3人での隔

## 相談窓口で電話つながらず

### ある家族の自宅療養体験

隔離生活になりました。長女と妻がPCR検査を受けると結果はともに陽性でした。

地元自治体のコロナ相談窓口で薬の追加処方方を相談しようと電話をかけたが全然つながりませんでした。

隔離生活を支えたのが妻でした。妻は自営業のため、看病や食事作りなどで仕事ができなくなるとその分収入に影響します。当時の状況を鈴木さんは「妻は(仕事どころではなかった)」と言います。

隔離生活中、長女はオンライン授業を受けました。しかし、体育などオンライン対応していない教科も。しば

らくして、支給されたタブレットが不良品で使用中止になってからは、授業が受けられず、教科書やドリルで自主学習を進めました。

現在、一部屋での隔離はなくなりましたが、妻と長女はいまも自宅隔離中です。

感染の経路について鈴木さんは「外出もスーパーに行くくらい。人混みを避けるなど感染防止に気を付けていたのに」と話します。

保健体制のもろさを肌身で体験した鈴木さんは、政府に対し「(体制を)備えておくべきだった」と語りました。